東田地区の事業及び事後評価結果について(1/2:PLAN ▶ DO ▶ CHECK ▶ ACT)

事後評価 （原案） の概要

PLAN（計画 [=事前]）
都市再生整備計画(第1期)作成

【大目標】
集客拠点に相応しく、来訪者に魅力的な都市環境の形成

【目標1】
観光施設、教育・文化施設、大規模商業施設などが集積する集客拠点の中核に相応しいゲート空間の形成

【目標2】
施設を歩いて巡りたくなる公共空間の形成

【目標達成度を評価するための指標】

指標1	従前値（基準年度）	目標値（目標年度）
東田地区の観光客数（人／年）	708,000（R1）	2,000,000（R7）

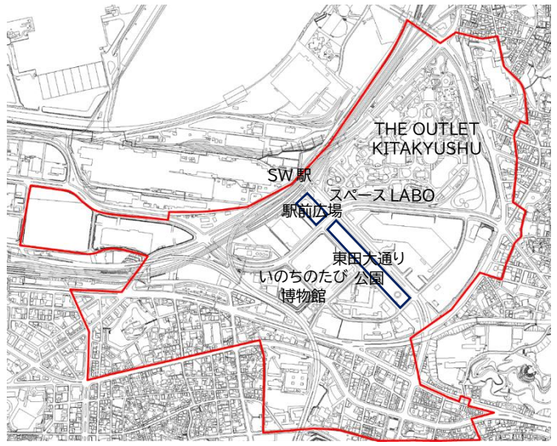
指標2	従前値（基準年度）	目標値（目標年度）
東田地区来訪者の平均滞在時間（h／人）	1.2（R1）	1.6（R7）

指標3	従前値（基準年度）	目標値（目標年度）
東田地区の歩行者通行量（人／日）	11,356（R2）	13,000（R7）

その他の指標	従前値（基準年度）	評価値（評価年度）
スペースワールド駅一日あたりの平均乗車人員（人）	1,696（R2）	3,143（R6）

DO（事業実施）

【取り組んだ主な事業】
・スペースワールド駅前広場魅力向上事業
・新科学館周辺景観整備事業
・いのちのたび博物館周辺公共空間再編事業
・スペースワールド駅周辺 EV・ES 改修事業
・賑わい空間創出実証実験(公園における社会実験)
・新科学館整備事業　など



【取り組んだ主な事業】
・東田大通り公園整備事業
・ミュージアムパーク創造事業関連サイン整備事業
　など

社会実験における道路の活用風景

ミュージアムパーク創造事業関連サインの設置

東田大通り公園の整備(駅前広場側)

スペースワールド駅前広場(駐輪場)の整備

東田大通り公園の整備(いのちのたび博物館前)

スペースワールド駅前広場の整備

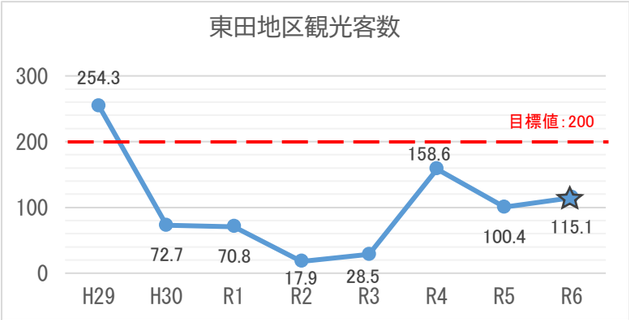
事後評価検討会の傍聴を希望される場合は、都市戦略局都市再生企画課 （582−2502） までご連絡ください。

東田地区の事業及び事後評価結果について（2/2：PLAN ▶ DO ▶ CHECK ▶ ACT ）

CHECK（評価［=事後］）
事後評価原案

【目標達成度／総合所見】

■指標1
東田地区の観光客数（千人／年）



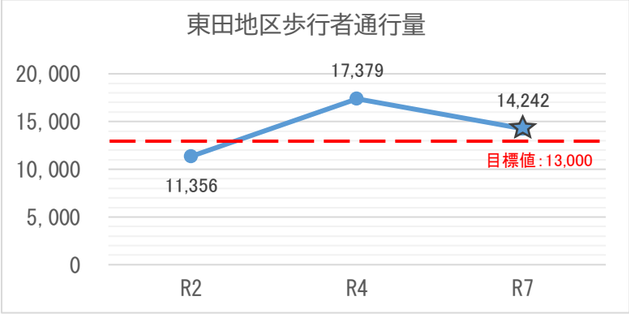
※北九州市観光動態調査より算出

評価値：115,100 人／日（R6 年度）

目標値（200万人）に対して、令和6年の評価値は未達成に終わった。これは、平成29年のスペースワールド閉園およびその後の新型コロナウイルス感染症拡大という2つの外部要因が大きく影響したと考えられる。

コロナ禍には18万人弱まで落ち込んだものの、令和4年には「ジアウトレット北九州」や「スペース LABO」の開業効果により158万人まで回復した。令和5年には100万人に減少したが、令和6年には約115万人と再び上昇傾向となっている。本地区は、広域から人々を惹きつけたテーマパーク型から、買い物を中心とする商業施設型へと集客構造が変化しており、今後はこうした特性の変化を考慮する必要がある。次期計画では、集客施設の定着と継続的なアップデートに加え、地区全体を一体的にプロモーションすることで、持続的な賑わいを創出し、目標達成に向けた効果を確実なものとしていく。

■指標3
東田地区の歩行者通行量（人／日）



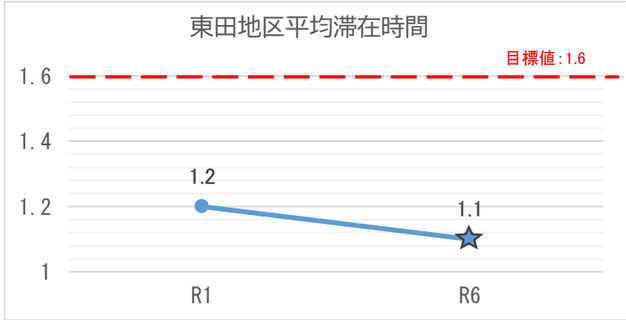
※東田地区主要地点 14 箇所の3日間（土日平日）平均

評価値：14,242 人／日（R7 年度）

令和7年の評価値は、目標値（13,000人）を上回り達成した。

基幹事業による空間整備と関連事業による集客施設の整備が一体となり、歩行者の回遊性・滞在性に寄与したことが、目標達成に貢献した。特に、東田大通り公園と駅前広場の整備は、歩行者動線の核となり、サイン整備がそれを補完する形で効果を発現している。

■指標2
東田地区来訪者の平均滞在時間（h／人）



※東田大通り公園を中心とした10メッシュ（1メッシュ：125m×125m）

評価値：1.1h／人（R6 年度）

目標値（1. 6h/人）に対して令和6年の評価値は未達成に終わった。

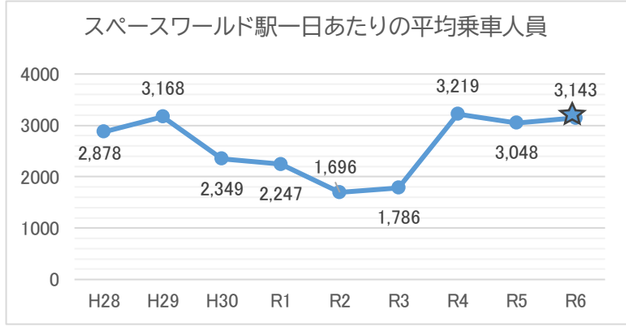
令和元年と令和6年をメッシュごとに比較すると、

・駅前広場や東田大通り公園（ゲート部分）といった本事業で整備した箇所では滞在時間の増加が見られ、整備の効果が発現している。

・減少が見られるメッシュは、主にイオンモールを含むものとなっており、強力な集客力を持つ商業施設における滞在時間の変動が、大きく影響している。

今後は、次期計画において東田大通り公園の整備を完了させ、遊具や広場での滞在時間を延ばすきっかけをつくるとともに、商業施設、教育文化施設と公園・広場をつなぐ回遊性を高めることで、地区全体における賑わいの定着と滞在時間の向上を確実なものとする必要がある。

■その他の指標
スペースワールド駅一日あたりの平均乗車人員（人）



評価値：3,143 人（R6 年度）

平成29年のスペースワールド閉園やその後の新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、一時は減少したが、現在は閉園時と同程度まで回復している。公共交通による来訪者の増加に伴い、歩行者通行量の増加や回遊性の向上がみられる点は高く評価できる。今後の駅周辺の EV 改修事業により、鉄道利用者の利便性向上や安全・快適な動線確保を図ることで、ゲート空間としての更なる機能強化を目指す。

■東田地区の近年の動き

2017 年（H29）	スペースワールド閉園
2022 年（R4）	スペース LABO THE OUTLET KITAKYUSHU 開業
2023年（R5）	いのちのたび博物館リニューアルオープン

ACT（改善）
都市再生整備計画（第2期）素案作成

【今後のまちづくりの目標】

特徴ある多様な施設群を活かして広域から人を呼び込み、学び、遊び、憩いが可能な公共空間を創出し滞在価値を高めるまちづくり

目標1：文化施設群と商業施設をつなぐ回遊軸と回遊核の形成
目標2：多様な活動を誘発する場の創出
目標3：来訪者の思い出となるような公共空間の魅力づくり

【今後のまちづくり方策等】

下記の3つの方針に基づき、引き続き、東田地区の魅力向上、賑わい創出等に資する施策を推進する。

①滞在時間が増加するような空間の創出
・東田大通り公園に子どもが楽しく遊ぶことができる遊具の設置
・多様なアクティビティを誘発する広場の整備
・憩い、賑わう滞在空間の創出、多様な過ごし方ができる空間整備

②魅力あるゲート空間の形成
・文化施設等を訪れるファミリーなど来訪者をワクワクさせる空間の創出
・駅前ゲート空間とまちの繋がり強化

③居心地がよく歩きたくなる公共空間づくり
・東田大通り公園の魅力向上
・エリア全体の回遊性向上
・地区内の回遊を促す歩行者中心の公共空間整備

＜想定される施策＞
・東田大通り公園整備事業
・スペースワールド駅周辺 EV 改修事業
・いのちのたび博物館周辺公共空間再編事業
・ミュージアムパーク創造事業関連サイン整備事業

など